

チャベス移住地概要（イタプア県）



チャベス移住地は、アスンシオン首都から南に約 400km 地点に位置しており、第 3 の都市エンカルナシオン市からは約 30km の地点に位置しています。

1952 年にパラグアイ政府によってカピタン・ミランダ隣接の利用されていない土地が自作農促進のため解放され、当時の大統領の名を付けたチャベス移住地（フェデリコ・チャベス）が創設されました。チャベス移住地は、ドイツ、ロシア、フランス、ウクライナ、ベルギー、オランダ等の移住者からなる国際色豊かな移住地です。

チャベス移住地への日本人入植は 1953 年にラ・コルメナからエンカルナシオン市に転移した日本人 6 家族から始まり、200 家族がチャベス移住地に入植しましたが、60 年代のデフレにより 70 年代には 71 家族に激減しました。

チャベス日本人会



チャベス日本人会は 1955 年に設立され、日本人会の運営に加え、敬老会や成人式、スポーツ大会の実施など日本文化関連事業などを行っています。その他にも 2021 年までは日本人会館内にあるチャベス中央日本語学校の運営も行っていましたが、現在は一次休校となっています。同日本人会の傘下には婦人部及び青年部の 2 つの系統団体があり、婦人部は料理講習会

や日本人会主催の行事での昼食づくりなどを行っており、青年部は日本人会行事での売店の設営・販売などを行っている。

社団法人 チャベス日本人会

住所：Calle D-5 Capitán Miranda, Itapúa, Paraguay

電話：(+595 21) 327 1476

チャベス中央日本語学校



1955年に日本語学校が開校され、その後、栄・旭地区合併校が建設されました。1974年に学校の統合が決まり、中央地区に中央日本語学校が建設されました。しかし、1990年ごろから

児童（2世の世代）がいなくなり、一時休校となりましたが、日系3世の入学で学校は再開し、1994年から2011年までは幼稚園も開講されました。現在（2022年11月）は、児童数の減少により、一時休校となっています。

行き方

エンカルナシオン市からエステ市（国道6号線）に向かって約20km地点に Ruta Graneros del Sur との交差点があります。交差点を左に曲がり（Calle D）、約10km地点にチャベス移住地があります。

アスンシオン市から向かう場合は、国道1号線の320km地点の Carmen del Parana（イタプア県）から Ruta Graneros del Sur にアクセスし、フラム市とラパス市の中間にある交差点（Cruce UPISA）を右に曲がり、チャベス移住地（Ruta Graneros del Sur, Calle D）に行くこともできます。

ラパス市からチャベス移住地、カピタン・ミランダ市、そしてエンカルナシオン市まで La Frameña というバスが運行しています。